

ミャンマーで

医療支援決定

5年間、国循などと協力



性心疾患治療の発展に向け
た医療支援事業」に関する
覚書を結んだ。

国内外の心臓病の子供たちを救う「明美ちゃん基金」(産経新聞社提唱)は、国立循環器病研究センター(大阪府吹田市)、東京女子医大病院(東京都新宿区)、NPO法人「シャパンハート」(台東区)と協力し、ミャンマーで先天性の心臓病の治療を発展させるための医療支援を、今年度から5年間にわたり実施することを決めた。

9月6日に医療団の第1陣がミャンマーへ渡航することが決まっており、事業の活動が本格的に始まる。今回、基金とともに事業を行う国立循環器病研究センターと東京女子医大病院は、ともに国内有数の心疾患の治療拠点で、ミャンマーの医師らが訪日した際の指導病院となる予定。シャパンハートは、ミャンマーを中心に東南アジアなどで活動する国際医療ボランティア団体。これまでの功績を評価され、昨年度の外務大臣表彰を受けている。

病に苦しむ子供たちの治療を通じて、日本の医療技術をミャンマーの医療関係者に伝え、心臓病の専門医や、専門性の高い医療関係者を育成することが目的。支援先はヤンゴンにある国立ヤンキン子供病院で、基金は今年3月、同病院と「ミャンマーにおける先天

性心臓病などに苦しむ子供たちを救うため、産経新聞が提唱して設立された基金。昭和41年、先天性心臓病の手術費用を賄えない鹿児島県の当時5歳の少女、伊瀬知明美ちゃんを紙面で紹介したところ、読者から「明美ちゃんを救ってほしい」と多額の善意が送られてきたことをきっかけに設立。基金で救った子供は国内外合わせ100人以上。活動資金は読者ら一般の方々の善意で賄われている。

|| 21面に特集



明美ちゃん基金 先天性の心臓病などに苦し

みながら経済的な事情で治療を受けることができない子供たちを救うため、産経新聞が提唱して設立された基金。昭和41年、先天性心臓病の手術費用を賄えない鹿児島県の当時5歳の少女、伊瀬知明美ちゃんを紙面で紹介したところ、読者から「明美ちゃんを救ってほしい」と多額の善意が送られてきたことをきっかけに設立。基金で救った子供は国内外合わせ100人以上。活動資金は読者ら一般の方々の善意で賄われている。